

外郭団体評価調書【公益・一般法人用】

1. 基本情報

令和2年7月1日 現在

団体名	公益財団法人 會津八一記念館		
所在地	新潟市中央区万代3丁目1番1号		
代表者(職・氏名) (所属・職)	理事長 小田 敏三	電話番号	025-282-7612
		ホームページ	http://aizuyaichi.or.jp/
市所管課	文化スポーツ部 文化政策課	電子メール	aizu-81@athena.ocn.ne.jp
基本財産 (基本金)	198,400 千円	設立年月日	昭和47年5月8日 (平成22年12月22日公益財団法人へ移行)
出資者	氏名・団体等名称	出資等額	出資等比率
	新潟市	100,000 千円	50.4 %
	株式会社新潟日報社	2,400 千円	1.2 %
	株式会社新潟放送	2,400 千円	1.2 %
	株式会社本間組	2,400 千円	1.2 %
	株式会社福田組	2,400 千円	1.2 %
	その他	88,800 千円	44.8 %
設立目的	會津八一の遺墨・遺品・著書をはじめ會津八一に関する資料を調査研究し、文学・芸術など学芸に残した業績を伝え、広く後学の研究と鑑賞に供し、教育・学術の交流に資すること。		
経営理念 経営方針	會津八一に関する調査研究、諸展覧の開催、諸種講演会、研究会の開催および印刷物の刊行、記念館の管理、その他法人の目的を達成するために必要な事業を遂行する。		

2. 主要事業

事業名①		會津八一記念館管理運営事業					
事業概要	(概要) 市の財産である會津八一の遺墨や八一と交友関係にあった文化人・作家の作品を保存・管理し、展覧会を通じて県民をはじめとする全国の愛好家に業績を普及する。						
	(市政へどのように寄与・貢献するのか) 名誉市民たる八一の生き方と作品の芸術性、その発信は新潟の文化的土壌の豊かさを知らしめるものであり、次代を担う児童生徒の大きな誇りとなりうるものである。						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(予算)
公益事業	受託事業	支出額	千円	45,192	43,646	43,516	47,522
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
年間入館者数	R2	人	4,000				
	R1	人	8,000	7,466	ほぼ達成。1～3月、特に3月はコロナ感染発生で例年を大きく下回った。		
	H30	人	8,000	7,845	ほぼ達成		
	H29	人	8,000	5,684	企画展で取り上げた人物の知名度が今一つで、関心を引き起こせなかった。特別展も予想を下回った。		
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
年間入館料	R2	千円	1,000				
	R1	千円	3,000	2,051	感染症発生の影響を受けた。		
	H30	千円	3,000	2,567	目標額に見合う入館者に及ばなかった		
	H29	千円	3,000	1,920	入館者減少によるもの		
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R2						
	R1						
	H30						
	H29						

2. 主要事業

事業名②		展示事業					
事業概要	<p>(概要) 新潟を代表する文人會津八一の作品と業績（短歌、書、美術史、教育）を広く知ってもらうため、八一の遺墨を中心に、年一回の特別展ではゆかりの人物や地域に焦点を当て、また3回の企画展では所蔵品を中心に作品を展示。</p>						
	<p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 記念館の基幹事業。會津八一の創作活動、文化振興活動を紹介することはすなわち、新潟市の名誉市民がどのように郷土の文化振興に寄与したかを知ってもらう機会である。</p>						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度（予算）
公益事業	自主事業	支出額	千円	6,364	7,182	7,171	7,743
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
特別展 (入館者数)	R2	人	3,000				
	R1	人	3,000	2,300	富本憲吉という陶芸分野の人物を取り上げたことが関心呼んだ。		
	H30	人	3,000	2,219	中村屋サロン美術館作品を借り、絵画や彫刻といった美術に関心ある層を取り込めたと思う。		
	H29	人	3,000	1,911	「禅」をテーマに、根強いファンがいる「良寛」に引き付けたが、関心の広がりがなかったようだ。		
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
企画展 (入館者数)	R2	人	5,000				
	R1	人	5,000	5,166	国民文化祭期間中、天皇皇后両陛下がお越しになったことが注目された。		
	H30	人	5,000	5,626	秋のテーマ「奈良・仏像」は時代に関係なく高い関心を呼ぶ。		
	H29	人	5,000	3,773	八一の友人遺族からの寄贈作品をお披露目した企画展は、その人物の知名度がなかった。		
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R2						
	R1						
	H30						
	H29						

2. 主要事業

事業名③		文芸講演会事業					
事業概要	(概要) 4回の展示に関連してその分野の研究者・専門家を招き、テーマに関連した内容を語ってもらう。そのことにより県民市民が教養を高める一助とする。						
	(市政へどのように寄与・貢献するのか) 教養事業である。市民の文化意識を高め、八一という名誉市民の顕彰にも通じる。文化行政への関心を高める。						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	1,029	716	824	300
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
開催数	R2	件		3			
	R1	件		6	6	純粋な講演会以外に体験講座を開き、その講師からも話を聞いた。	
	H30	件		7	9	純粋な講演会以外に体験講座を開き、その講師からも話を聞いた。	
	H29	件		8	6	体験講座がなかったため。	
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
聴講者数	R2	人		500			
	R1	人		1,000	518	3月実施予定の講演会を、コロナ感染の発生で中止せざるを得なかった。館外講座(八一の作品鑑賞・解説会)も同様に中止。	
	H30	人		1,000	865	講演内容によっては100人に満たない場合もある。	
	H29	人		1,200	755	テーマや取り上げる人物が地味だと関心も低い。	
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
	R2						
	R1						
	H30						
	H29						

2. 主要事業

事業名④		販売事業					
事業概要	(概要) 特別展図録、自主開発した商品、関連書籍、會津八一のやりとりした書簡（の活字起こし）の制作販売。						
	(市政へどのように寄与・貢献するのか) 書籍や展覧会図録は、新潟市名誉市民たる會津八一の業績を広く普及する手段の一つ。文化行政の一翼を担う。						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度（予算）
収益事業	自主事業	収入額	千円	2,505	2,716	1,828	3,000
活動指標①		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
販売事業	R2	千円		2,000			
	R1	千円		2,000	1,267	前前年度商品化した扇子以降、新規開発がおこなわれているのも一因。	
	H30	千円		2,300	1,707	名目をつけて割引販売をすることがあるが、そうそう売れるものではない。	
	H29	千円		2,390	2,006	名目をつけて割引販売をすることがあるが、そうそう売れるものではない。	
活動指標②		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
鑑定事業	R2	千円		1,000			
	R1	千円		1,100	561	依頼数が少なかった。	
	H30	千円		1,000	1,009	達成。鑑定依頼数が多かった。	
	H29	千円		1,300	648	依頼が極端に少なかった。出ないことには収入にならない。	
活動指標③		年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由	
	R2						
	R1						
	H30						
	H29						

2. 主要事業

事業名⑤		普及活動事業					
事業概要	<p>(概要) 會津八一の業績のうち短歌について、そのイメージを写真で表現することを呼びかける。そのことによって写真分野で活動する人たちにも八一の世界をしってもらい、もって八一の業績の広まりと認知度アップを図る。また職員が館外で講演することにより、来館したことのない人からも會津八一に関心を持ってもらい、業績を認知してもらう。</p>						
	<p>(市政へどのように寄与・貢献するのか) 會津八一の業績の顕彰と普及活動の一環である。新潟市が書家・歌人の八一を名誉市民としてその生き方を誇りにしていることが広く内外に認知される事業である。</p>						
事業区分	主体区分	収支区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(予算)
公益事業	自主事業	支出額	千円	2,432	2,775	2,677	2,650
活動指標①	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
「八一の歌を映す」写真コンテスト応募点数	R2	点	150				
	R1	点	150	152	認知され普及しているから。		
	H30	点	160	147	応募人数は前年同数。		
	H29	点	180	151	増えた前年の反動減。		
活動指標②	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
館長・学芸員の出前講演会、講座回数	R2	回	3				
	R1	回	10	7	神林前館長が体調不良で活動に支障をきたしたこと、コロナの影響で開催が中止になったこと。		
	H30	回	11	8	胎内市、秋葉区荻川地区など、ほぼ恒例のように講座を開いてくれる学校・協団体がある半面、市内中学校には呼びかけをしているものの、年間行事計画の制約があつてか声を掛けてくださるところはない。定例化しているのは胎内市内の小学校のみである。		
	H29	回	13	11	〃		
活動指標③	年度	単位	計画	実績	達成・未達成の理由		
	R2						
	R1						
	H30						
	H29						

3. 組織等の状況

(1) 役職員数の状況

令和2年7月1日 現在 (単位:人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
役員数	11	11	11	11
常勤	0	0	0	0
市派遣				
市職員OB				
プロパー役員				
他団体からの派遣				
非常勤	11	11	11	11
市兼任	3	3	3	3
市職員OB				
他団体兼任	8	8	8	8
その他				
職員数	5	5	3	3
常勤	2	2	2	2
市派遣				
市職員OB				
プロパー職員	2	2	2	2
他団体からの派遣				
非常勤	3	3	1	1
市兼任				
市職員OB				
他団体兼任				
その他臨時・嘱託等	3	3	1	1
見直し等の取組み				

(2) 職員の状況 (市派遣職員を除く。)

令和2年7月1日 現在 (単位:人)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
職員の状況	管理職	2	2	
	一般職	3	3	3
	合計	5	5	3
年齢構成	20代以下			
	30代	1	1	1
	40代	1	1	1
	50代			
	60代以上	3	3	1
	合計	5	5	3

(3) 役員報酬・職員給与等の状況

(決算 単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(予算)
報酬・給与等	19,837	20,264	21,162	20,729
内 市職員分	0	0	0	0
役員	0	7,268	7,268	7,268
常勤				
内 市職員分				
非常勤		7,268	7,268	7,268
内 市職員分				
職員	19,837	12,996	13,894	13,461
常勤	9,950	10,371	11,221	10,767
内 市職員分				
非常勤	9,887	2,625	2,673	2,694
内 市職員分				
平均年収(市職員を除く。)				
常勤役員				
常勤職員	4,975	5,186	5,611	5,384
見直し等の取り組み				

(4) 給与等の適正化の状況(市派遣職員を除く。)

現在の給与体系		今後の見直し予定	
	団体独自の給与体系		有 予定時期 年度～
●	市の給与体系を準用	●	無
	その他〔 〕		その他〔 〕

4. 財務の状況

(1) 正味財産増減計算書

(決算 単位：千円)

		平成29年度	平成30年度	令和元年度
一般正味財産増減の部	経常収益	51,384	50,150	48,550
	基本財産運用益	3,210	3,184	3,184
	特定資産運用益	1	1	1
	受取会費			
	事業収益	45,400	44,194	42,692
	自主事業収益	3,556	3,781	2,813
	受託事業収益	41,844	40,413	39,879
	受取補助金等・負担金			
	その他経常収益	2,773	2,771	2,673
	経常費用	50,983	54,158	49,506
	事業費	49,733	52,575	48,256
	公益目的事業費	41,506	43,294	40,001
	収益目的事業費	3,083	4,022	2,988
	(自主事業費)			
	(受託事業費)			
	法人会計	5,144	5,259	5,267
	管理費	1,250	1,583	1,250
	評価損益等調整前当期経常増減額	401	▲ 4,008	▲ 956
	評価損益等	0	0	0
	基本財産評価損益等			
	特定資産評価損益等			
投資有価証券評価損益等				
当期経常増減額	401	▲ 4,008	▲ 956	
経常外収益				
経常外費用	70	70	70	
当期経常外増減額	▲ 70	▲ 70	▲ 70	
当期一般正味財産増減額	331	▲ 4,078	▲ 1,026	
一般正味財産期首残高	40,147	40,478	36,399	
一般正味財産期末残高	40,478	36,400	35,373	
指定正味財産増減の部	受取補助金等・負担金			
	その他	▲ 147	▲ 147	▲ 147
	基本財産評価損益			
	特定財産評価損益			
	一般正味財産への振替額	147	147	147
	当期指定正味財産増減額			
指定正味財産期首残高	201,724	201,724	201,724	
指定正味財産期末残高	201,724	201,724	201,724	
基金増減の部	基金受入額			
	基金返還額			
	当期基金増減額	0	0	0
	基金期首残高			
基金期末残高	0	0	0	
正味財産期末残高		242,202	238,124	237,097

(参考)

(決算 単位：千円)

(別掲)人件費	19,837	20,264	21,162
役員分		7,268	7,268
職員分	19,837	12,996	13,894

(2) 貸借対照表

(決算 単位：千円)

		平成29年度	平成30年度	令和元年度
資産の部	資産の部合計	254,452	249,978	248,790
	流動資産	19,738	13,530	11,591
	現金預金	7,395	2,372	966
	未収金			
	有価証券			
	その他流動資産	12,343	11,158	10,625
	固定資産	234,714	236,448	237,199
	基本財産	200,990	200,843	200,696
	特定資産	27,161	28,668	29,371
	その他固定資産	6,563	6,937	7,132
	有形固定資産	6,143	6,321	6,321
	無形固定資産	420	616	811
	その他投資等			
負債の部	負債の部合計	12,250	11,854	11,693
	流動負債	4,811	3,699	2,836
	短期借入金			
	その他流動負債	4,811	3,699	2,836
	固定負債	7,439	8,155	8,857
	長期借入金			
その他固定負債	7,439	8,155	8,857	
正味財産の部	正味財産の部合計	242,202	238,124	237,097
	基金	0	0	0
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	指定正味財産	201,724	201,724	201,724
	うち補助金	201,724	201,724	201,724
	(基本財産充当額)			
	(特定資産充当額)			
	一般正味財産	40,478	36,400	35,373
	代替基金			
	その他一般正味財産	40,478	36,400	35,373
(基本財産充当額)				
(特定資産充当額)				
負債の部及び正味財産の部合計	254,452	249,978	248,790	

(3) 市財政支出等の状況

(決算 単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
市財政支出等の合計	45,272	43,726	43,596
補助金			
負担金	80	80	80
交付金			
委託料	45,192	43,646	43,516
貸付金(期中借入額)			
出資・出捐金(追加額)			
その他			
貸付金残高			
損失補償契約に係る債務残高			
損失補償限度額			
債務保証に係る債務残高			
その他財政援助の状況 (税や使用料の減免、建物の無償貸与等)			

(市財政支出等がある場合) 目的、内容、必要性、増減理由等

内容はほぼ100%事業委託料(指定管理料)で、年4回の展示費用や施設管理費、人件費など。目的は新潟市名誉市民會津八一の業績の顕彰と普及活動推進、そしてその活動拠点である記念館施設の維持・管理のため。

(4) 遊休財産の状況

(単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
純資産	242,202	238,124	237,097
公益目的保有財産	▲	▲	▲
公益目的事業を行う為に必要な収益事業等その他の業務又は活動の用に供する財産	▲	▲	▲
特定の財産の取得又は改良に充てるために保有する資金	▲	▲	▲
合理的に算出された必要限度額以内の特定費用準備資金	▲	▲	▲
拋出者の意思に従って、使用・保有されている財産	▲	▲	▲
遊休財産額	242,202	238,124	237,097

5. 経営改善状況（評価指標）

※ 評価基準に満たない場合は、網掛けセルに太字斜字体が表示されます。

（1）財務の健全性

指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度
経常損益		401 千円	▲ 4,008 千円	▲ 956 千円
自己資本比率	純資産	95.2 %	95.3 %	95.3 %
	純資産＋負債			
流動比率	流動資産	410.3 %	365.8 %	408.7 %
	流動負債			
固定長期適合率	固定資産	94.0 %	96.0 %	96.4 %
	固定負債＋純資産			
借入金依存度	借入金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	資産の部合計			
剰余金（欠損金）	純資産 －資本金（基本金）	43,802 千円	39,724 千円	38,697 千円
公益目的事業比率	公益目的事業費	90.5 %	88.5 %	90.4 %
	公益・収益目的事業費＋管理費			
遊休財産水準	公益目的事業費 遊休財産額	0.17	0.18	0.17
資金運用 （基本財産としての 有価証券の保有）	● 有	→	① 運用方針を明文化し、それに従って運用している。	○
	○ 無		② 資金運用利率は市場金利の水準を確保している。	○
	③ 資金運用に関する情報収集に努めている。		○	
	④ 元本割れのリスクはない。		○	

（2）団体の自立性

指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度
市職員比率	常勤職員数（市職員）	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	常勤職員数			
財政的依存度	市財政支出	88.1 %	87.2 %	89.8 %
	経常収益＋経常外収益			
運営費補助比率	市運営費補助金	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	経常収益			
随意契約比率	市随意契約額 市委託料	100.0 %	100.0 %	100.0 %

（3）経営の効率性

指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度
職員1人当たり 売上高	事業収益	9,080 千円	8,839 千円	14,231 千円
	職員数			
職員1人当たり 経常利益	事業活動収支差額	80 千円	▲ 802 千円	▲ 319 千円
	職員数			
管理費比率	管理費	2.4 %	2.9 %	2.5 %
	経常費用			
職員1人当たり 管理費	管理費	250 千円	317 千円	417 千円
	職員数			
人件費比率	人件費	38.6 %	40.4 %	43.6 %
	経常収益			
役員人件費比率	役員人件費 人件費	0.0 %	35.9 %	34.3 %

(4) 経営の適正性

① 中長期計画の策定状況	
● 有	計画名称 { 會津八一没後70年に向けて/存在意義を広 め、存在価値を高めるー生活様式変化の中で } 計画5年 令和 2~6年度
概要・数値目標 コロナ禍による生活・行動様式の変化が予想される、実現性については不確定要素があることを踏まえつつ。會津八一は歴史上の人物となり、その業績を伝えていくことは、新潟市民にとってますます重要になってきた。書家で俳優の松村雄基氏も「生きる活力を与えられる」と評する人と作品を市民にも再評価してもらいたい。 <入館者>過去2年は7,000人台だった。今年度以降、コロナ禍の影響がどこまで及ぶか。「リモート」「オンライン」が仕事や趣味の世界に広まった。それを踏まえ、記念館における新しい鑑賞法方法を研究し実現を目指す。入館者数が企画(展示)内容に左右するのは否めないが、書家である館長の新しい視点で、常に聞かれる「八一の書をもっと見たい」という声にこたえ、何度も来てくれているファンを引き付けると同時に「新規」を開拓する。「新規の一つ」が中学生だ。この4年間に来館の機会がなかった市内中学校の約半数の30校近い学校に働きかけ「<未>来館」を解消していく。 <図録と在庫>特別展ごとの図録が在庫の大きな部分を占めている。販売価格との兼ね合いで、ある程度の部数を作ってきたが、その体裁を含め発行形態(価格・部数)を研究し、いわゆる在庫の重しにならないようなものへと変える。同時に積みあがった図録の在庫を必要分を残して学校現場へ配布する。 <普及>普及材としては冊子「奈良京都の歌碑」に続き「県内の歌碑」を発行する。さらに「全国の歌碑」をまとめる。 <財産整理と活用>膨大な収蔵品の整理も喫緊の課題。館蔵品図録の作成は研究鑑賞資料として、後世への責務と考える。 <対外関係>縁ある奈良京都との親交を維持発展させる。歌碑建立や交流会だ。會津八一没後70年までの間に克服・実現すべき課題とその具体策については別紙。	
● 無	未策定理由 無 { }

② 経理の適正化の取組み			
専門家による監事・監査役就任		専門家による会計指導	
● 有	就任時期 年度~ 依頼先職種 { }	● 有	依頼時期 平成18年度~ 依頼先職種 { 税理事務所 }
● 無		● 無	

③ 事務処理改善の取組み	
● 有	取組内容 平成29年度~ (窓口で駐車券の要望が多いことから、メディアシップの2つの駐車場(1時間440円と同400円)の1時間無料券(1,000円以上の記念館商品購入者)と2時間券(3,000円以上の購入者)を進呈。取り扱い商品を紹介するチラシを作製し、見やすいように受付に掲示。)
● 無	

④ 人材育成の取組み	
● 有	取組内容 平成17年度~ (市や民間の生涯学習事業(市政トーク便りなど)の講師を積極的に引き受けることで、知識の整理と深化につなげている。隣接の文化の記憶館と連携し、顕彰人物に関してだけではなく、関連人物や周辺事項についても幅広い知識を習得してきている。それらが、會津八一の業績普及につながっている。上部団体の研修会にできる限り参加したり、県外博物館の見学や交換展で「見せ方」「企画の仕方」を学び、学術誌や他館からの依頼に応え原稿を寄せている。また新聞への寄稿は、簡潔に展示内容を紹介する文章作りの機会ととらえ、展示ごとに掲載をお願いしている。)
● 無	

⑤ 情報公開に関する規定の整備状況			
● 有	策定時期 平成12年度~ 規定名称 { 公益財団法人會津八一記念館情報公開規定 }	団体ホームページ掲載	● 定款等 21年度~
● 無	未整備理由 { 役員は無報酬 }		● 事業内容 21年度~
			● 役員名簿 21年度~
			● 役員報酬 年度~
			● 事業報告 21年度~
			● 正味財産増減計算書 21年度~
			● 貸借対照表 21年度~
			● 事業計画書 21年度~
			● 予算概要 21年度~

改善対応区分
 A: 改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
 B: 改善の取組の効果が始まっている
 C: 改善の取組に着手
 D: 改善の取組に向けて検討中
 E: 今は実施せず今後の課題とする

6. 経営改善状況（個別の取組み）

(1) 前年度までの評価における【改善指示事項】の改善状況

改善指示事項		後継者の育成・増員を検討しなければならない。				
改善・対応区分		A	B	C	D	E ●
当該区分の理由		同様事業を展開する隣接「にいがた文化の記憶館」との関係（組織・人員）の検討が議題に上っている。				
今後の具体的な取組み・対応方針等		上記理由により、令和4（2022）年に向けて組織人員のあり方を検討していく。				
工程	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	増員の検討	増員の可能性を検討。可能なら人材を探す	増員の可能性を検討。可能なら人材を探す	組織の在り方を検討	組織の在り方を検討	
今後の改善・対応 評価指標	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	増員の検討	計画	増員の可否判断と人材発掘	増員の可否の検討	組織の在り方検討	組織の内容を決定
		実績	未着手	組織人員の検討事案発生		
		進捗状況	【令和元年度までの達成状況及び今後の見込み】 記念館単独の事案ではなくなっている。			
		計画				
		実績				
進捗状況		【令和元年度までの達成状況及び今後の見込み】				

改善指示事項		引き続き會津八一の業績を顕彰するため、各取組みについて、内容の検証と継続的展開が望まれる。					
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E
当該区分の理由		俳優で書家の松村雄基氏を招き、トークイベントを開催。俳優のファンといった従来の八一ファンとは全く違う層の人たちの関心を集めた。					
今後の具体的な取組み・対応方針等		貴重な人材なので上記トークイベントは1回限りとはせず継続し、ファン層の拡大を図る。					
工程	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	写真コンテスト	第12回コンテスト実施。対象短歌の範囲を増やす	第13回コンテスト実施。募集内容（要項）の見直し	応募数の増加、応募者の広がり	応募数の増加、応募者の広がり		
	その他	各企画展の展示内容（性格付け、狙い）の再考	展示の性格付け	収蔵作品の見直し。収蔵品主体の展示	収蔵作品の見直し。収蔵品主体の展示		
今後の改善・対応	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	写真コンテスト	計画	巡回展会場に上越市を追加。また、協賛企業の発掘	学生への応募呼びかけ、部門賞の設置	写真部ではなく文芸関係の部活生徒への応募働きかけ	写真部ではなく文芸関係の部活生徒への応募働きかけ	
		実績	奈良県内、京都市、高松市、東京、胎内市、上越市で実施	中断			
		進捗状況	【令和元年度までの達成状況及び今後の見込み】 対象とする短歌の範囲を広げ、応募増につながった。上越市での巡回展は実現。また応募のすそ野を広げるため、部活で写真を楽しんでいる高校生の応募を求め生徒への働きかけを模索したが、指導教員から會津八一の短歌では「撮影と応募の動機付け」が困難で、目的（被写体、テーマ）が合致しないだろうとのことだった。				
その他	計画	体験講座を2回実施（5月と8月）	展示テーマ（酒）に沿った体験学習	トークイベント	トークイベント		
	実績	実施	中止				
	進捗状況	【令和元年度までの達成状況及び今後の見込み】 元年度に限ってはコロナ禍のため中止					

改善指示事項		中長期計画の策定にあたっては、市が策定した新潟市文化創造都市ビジョンの方向性に沿ったものとされたい。				
改善・対応区分		A	B	C	D	● E
当該区分の理由		前年度、前館長の退任と令和2年度からの新館長就任により、事業内容の性格・方向性が新たなものへと動こうとしており、展示に対する考え方も新館長が新たな方針を打ち出してきている。				
今後の具体的な取組み・対応方針等		新館長は書家であるため、會津八一の「書」に重点を置いた展示を構想している。書家會津八一の側面が色濃く打ち出されていくことになろう。その具現として所蔵品の活用尽力を入れていく。				
今後の改善・対応	工程	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		①長期計画作成の意義	生誕140年を意識すると同時に、文化芸術としての八一の「書」「歌」に視点を置いた展示・事業内容を考える	ファンのおそ野を広げるため、方向性の底流に八一の「書」「歌」を見せることを置いて展示・事業内容を計画していく。生誕140年を意識する。	生誕140年事業の具体化と没後70年を意識した事業内容の精査	令和8年（2026）年の没後70年に向けた事業の検討を開始する
評価指標	周年事業の実施	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		計画	生誕140年事業の構想	生誕140年事業の構想	生誕140年事業内容	没後70年事業の検討
		実績	未着手	着手		
		進捗状況	【令和元年度までの達成状況及び今後の見込み】 生誕140年を一つの契機として、會津八一の業績であり、市の財産である収蔵品の整理・活用、その具体化（汎用データ化、あるいは書籍化）を目指すという方向で意思統一。			

改善指示事項		各種イベントの実施を通じて増収に結びつけたが、赤字である。赤字の解消に取り組むべきである。				
改善・対応区分		A	B	C	D	● E
当該区分の理由		入館料収入は減少。鑑定会は出品作品の少なさでこれも減少。在庫の書籍を割引販売するも伸びず。				
今後の具体的な取組み・対応方針等		引き続き図録等の割引販売に注力。新商品の開発。鑑定会は美術商には知られている事業ではあるが、個人所有の八一作品を掘り起こすため、新聞広告を出す（これまでは出したことがない）。				
今後の改善・対応	工程	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		普及活動	簡易版の歌碑一覧の作成	歌碑写真集製作（県内）、八一の生涯の冊子作製と配布	県内の歌碑写真集製作と販売、進呈による普及活動。新商品開発	収蔵作品集の制作
評価指標	出版	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		計画	簡易版歌碑一覧	歌碑写真集製作	歌碑写真集県内版製作	歌碑写真集県外版、収蔵作品集
		実績	作製	増刷		
		進捗状況	【令和元年度までの達成状況及び今後の見込み】 奈良京都編の歌碑写真集は好評で2000部印刷。次は県内版を作る。さらに奈良以外の県外にある歌碑写真集を作る。			
	発信活動	計画	テレビCM作成	テレビCM	テレビCM、新聞広告	
		実績	2本制作—放送	特別展テレビCM		
		進捗状況	【令和元年度までの達成状況及び今後の見込み】 チラシ1000部を新聞折り込みで、近隣住宅街に配った（2020年3月）。中学校高等学校には校長あてに来館と出前授業の実施を呼びかけた。展覧会開始前に校長先生への呼びかけは継続する。新聞広告は展示に限っては新潟日報社は共催主催ということで随時出してもらえ。それ以外の催しや物販については有料広告も利用する。			

改善指示事項		今後どのような展示を希望するか、より多くのニーズを把握するため、アンケート調査の回収率を上げる等、有効なアンケート調査となるよう工夫が必要である。					
改善・対応区分		A	B	●	C	D	E
当該区分の理由		回収率が上がった。					
今後の改善・対応	今後の具体的な取組み・対応方針等	前年度からアンケート回答者にはその場で絵はがきをプレゼントすることにした。今後は住所氏名を書いた回答者には、展覧会案内を送ったり、割引優待や商品の割引販売を知らせることで、入館増に結び付ける。					
	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	アンケート項目の手直しによる具体的な要望を引き出す	新しいアンケート用紙により、意見要望をつかむ。開催認知の手段・方法を分析し広報・告知の仕方に役立てる	要望意見の展示への反映を目指す	要望意見の展示への反映を目指す	要望意見の展示への反映を目指す	要望意見の展示への反映を目指す	
	回収率アップを図る	記念の品を渡して回答状況の改善を図る	要望への回答を館内掲示できるようにし、観覧者に「参加意識」を持ってもらう	記念品進呈	記念品進呈		
	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
評価指標	アンケートの回収率向上	計画	回収率7%	回収率8%	回収率9%	回収率9%	
		実績	7.5%	9.6%			
	進捗状況	【令和元年度までの達成状況及び今後の見込み】 回収率は上がった。「歌碑の絵はがき進呈」の文言も功を奏した理由の一つかもしれない。30年度のアンケート結果を館内に張り出したことへの肯定的評価あり。「八一の作品を見たい」「奈良・仏像は感動した」との意見を大事にして展示計画する。					

改善指示事項		在庫整理を適切に進めるため、不良在庫に対する評価基準の明確化や、評価の切り下げ等、適切な会計処理を行う必要がある。					
改善・対応区分		A	B	C	●	D	E
当該区分の理由		完全に整理されてはいるが、常に会計事務所と改善の方向を話し合っている。					
今後の改善・対応	今後の具体的な取組み・対応方針等	図録等の制作部数を減らし、新規の在庫積み増しが増えないようにし、書籍の処分を学校現場への「配布・進呈」という形で進め、児童生徒の来館者にも資料として渡す。					
	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	制作部数をみなおす	特別展図録、雁魚來往の制作部数見直し	特別展図録、雁魚來往の作り方、制作部数見直し	特別展図録、雁魚來往の作り方、制作部数見直し	特別展図録、雁魚來往の作り方、制作部数見直し	特別展図録、雁魚來往の作り方、制作部数見直し	
	在庫の有効利用	割引販売をしながら、在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	在庫品をイベント等の景品、普及活動の道具として利用	
	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
評価指標	販売促進	計画	前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増	前年度売上5%増	
		実績	1,707千円 (8%減)	1,267千円 (26%減)			
	進捗状況	【令和元年度までの達成状況及び今後の見込み】 売り上げ実績は減少傾向。展覧会の広告は必ず出しているが、今後は取り扱い商品の新聞広告を出して認知度を高める。					
既存在庫削減	計画	毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減	毎年5%減		
	実績	11,111千円 (10%減)	10,606千円 (5%減)				
進捗状況	【令和元年度までの達成状況及び今後の見込み】 特別展の図録・書簡集は在庫が多い。近年はどちらも制作部数を減らし、手元に残るのはわずかになるようにしている。経理を見てもらっている公認会計士・税理士とは常にこの問題は話し合っており、在庫として積みあがっている主に図録等の書籍は原価割れを覚悟で販売したり、贈呈品として活用したりするなど削減に努める。						

改善対応区分
 A: 改善対応済(引き続き継続して実施するものも含む)
 B: 改善の取組の効果が始まっている
 C: 改善の取組に着手
 D: 改善の取組に向けて検討中
 E: 今は実施せず今後の課題とする

(2) 【その他改善を要する事項】の改善状況

① 今後の改善・対応 評価指標	今後改善を要する事項	展示室が1室である。(廊下にも展示できるが) 1室というのは内容は別として「ここだけ?」の感を抱かれる。なんとかボリュームを出したい。				
	改善・対応区分	A	B	C	● D	E
	当該区分の理由	盛りだくさんの展示をする場合もある(企画展プラス写真コンテスト作品展示)が、ケースバイケース。量だけがすべてではない。				
	今後の具体的な取組み・対応方針等	展示室1室というのは動かしがたい条件(制約)で、かといって詰め込みすぎは避けたい。やはり、ギャラリーと称している廊下とビデオルームの活用しかない。その廊下やビデオルームだが、展示室で展開する「テーマに沿った本筋」を補完する準常設展示コーナーと位置付けるしかないだろう。				
	工程	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		展示のボリュームアップ	特別展で会議室、ビデオルームに作品・所蔵品を展示	常設的スペースの設置または、常設的内容の展示の工夫	(従来以上に) 八一作品に重点を置いた展示を企画する	(従来以上に) 八一作品に重点を置いた展示を企画する
	展示の充実	実施事項	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		計画	会議室、ビデオルームの、展示スペースへの転用	常設的展示の模索	書家八一＝書作品を意識した展示	書家八一＝書作品を意識した展示
		実績	展示ごとに活用した	困難		
		進捗状況	【令和元年度までの達成状況及び今後の見込み】 補完的スペースとして展示室以外の場所を活用した。純粋に常設コーナーとするのは困難。			
計画						
実績						
進捗状況	【令和元年度までの達成状況及び今後の見込み】					

7. 評価の結果

【団体の評価コメント】

財務の健全性	公益事業会計は黒字を避けなければならない、元年度は若干のマイナスを計上した。その意味では健全。しかし、収益事業(物販収入、鑑定会収入)は大きな伸びの望めないのが苦しい。指定管理料を返還する場合もある。
団体の自立性	自主財源を持ち、自主事業(写真コンテスト、八一祭等)に用いている。特別展では新潟市、新潟日報、新潟放送が主催者として名を連ねてもらい、写真コンテストには行政や企業から事業賛同による共済・協賛をってもらうが、企画運営は館独自で実施。また、特別展以外の企画展で、他団体、企業からの受ける後援は、あくまで名義後援である。
経営の効率性・適正性	正規職員2人(学芸員)と非常勤職員(館長)、嘱託2名(事務総務系)という限られた人数で事業をこなしている。
その他	
総括的な所見	
館長は書家であり、會津八一の研究者。学芸員の一人は書道史と會津八一が専門、もう一人は書を含む美術史が専門で芸術学学位を持つ。小さな館でこれだけの陣容は珍しいと考える。外部で学術・芸術の講演ができるのも強みである。そのメンバーで、ある意味限られた収蔵品を、テーマを変え八一ゆかりの人物を絡ませることなどによって見せ方を工夫し、高い評価を得ている。展示の図録は各展示ごとに作り、特に特別展以外の図録は簡易ながら手ごろな価格を実現し、来館者には好評だ。また、写真コンテストは、八一の短歌と写真の融合による新しい表現形態の提案であり、多くの写真ファンの認知を得ている。一方、八一の原点ともいる奈良の東大寺をはじめとする名刹から、八一は今も敬愛されており、そのつながりは大切にすべき財産である。膨大な作品資料の、展示以外の活用が急がれるところだ。次代を担う児童生徒への浸透は、いまだ試行錯誤の段階である。財務面では在庫処理と収益源の開発が課題である。	

【所管課による評価】

企画展が好評であった点や、トークイベントの実施により従来の支持層以外の方の関心を呼べた点が評価できる。また、少ない人員体制の中で、工夫を凝らして事業を行っている。その一方で、新型コロナウイルスの影響もあるが、主要事業の目標を下回る項目が多い結果となっている。今後は感染症対策も行いながら、さらに會津八一の市民への周知や魅力発信に向けた取り組みを実施していただきたい。

【新たに改善を要する事項】

① 今後の改善・対応目標	今後改善を要する事項					
	今後の具体的な取組み・対応方針等					
	工程	実施事項・計画	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	評価指標	実施事項	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			計画			
		計画				

【総合評価】

概ね良好	改善の余地がある	● 改善が必要	抜本的な対応が必要
総合的な所見			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事後的な評価のための成果指標が設定されておらず、中長期計画の内容としては不十分である。 ・ 事業の参加者へのアンケート調査に基づき、簡易図録を導入したことは評価できる。 ・ 不良在庫について、前年度決算との比較では若干減少しているものの、依然として過大である。また、不良在庫に対する会計上の評価、処理基準等を明確にする必要がある。 			
改善指示事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期計画を補うものとして客観的な成果指標を追加し、取組んだ事業について、事後的な評価が可能なものとする必要がある。 ・ 不良在庫に対する評価基準や会計処理基準を明確化し、不良在庫における貸借対照表の評価を切り下げるなどの対応が必要である。 			

【総合評価を受けての団体としての決意】

来館者アンケートに示された要望を生かし、展示内容に反映させていくと同時に、一度来た人には直接案内を送り、再訪につなげる。中学校の来館を増やすため、学校訪問で対面による呼びかけを試みる。アンケートの回収率を上げる工夫をする。出版物は必要部数は確保し、在庫を軽くする。ほかの商品も新聞広告など活用し、販売に注力すると同時に普及活動に用いる。出版物も商品も普及材という考え方である。往復書簡集などは何年も前のものでも県外の図書館から寄贈依頼が来るほどである。

【総合評価における改善指示事項への対応方針】

改善指示事項		中長期計画を補うものとして、事後的な評価ができるよう、客観的な成果指標を設定することが必要である。					
今後の改善・対応	今後の具体的な取組み・対応方針等		中高生、特に新潟市内中学校の生徒の来館を増やし、低年齢層へ普及の幅を広げる。そのために過去5年、来館実績のない学校を訪問することで記念館に関心を向けさせる。また會津八一（記念館）の認知度を高めるため、アンケートを学校宛てに送り回収を目指す。作品鑑定の実施を新聞広告で呼びかけたところ個人からの出品が増えたことを踏まえ、商品情報、展覧会・講演会の告知に広告を活用し、来館・来場、売り上げの増加につなげる。図録は研究鑑賞教育用に活用				
	工程	実施事項・計画	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		来館校数の増加とアンケート	—	認知度アンケートを実施、来館していない学校を訪問	アンケート結果を踏まえ、学校訪問を継続	前年の実績を踏まえ、学校訪問を継続	
	評価指標	収益事業の強化		—	季節ごとに商品広告を打つ	季節ごとに商品広告を打つ	季節ごとに商品広告を打つ
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		市内中学校来館校数	計画	—	10校	10校	10校
実績							
認知度向上（情報入手方法「新聞」の割合増加＝アンケート回答）	計画	—	25%	30%	35%		
	実績						

改善指示事項		不良在庫について、評価基準や会計処理基準を明確化することで、貸借対照表の評価を切り下げるなどの対応が必要である。				
今後の改善・対応	今後の具体的な取組み・対応方針等	図録等出版物は実在庫数は多いが、後世の研究・鑑賞用資料という性格から「普及材」として扱う（これは税理士事務所から指導を受けた）。そのため一定数を保存する一方、図書館や教育機関に寄贈して活用してもらう。色紙やグッズ類はイベントの副賞や景品に使う。実際に在庫の多い（1種につき数百部単位の）色紙、図録の実数を減らす。（在庫全般の目標削減率については別項）				
	実施事項・計画	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	色紙（6種1950枚）	シンボルマーク受賞者への副賞にする。表彰式参加者への記念品	講演会、その他イベント参加者への記念品	講演会、その他イベント参加者への記念品	講演会、その他イベント参加者への記念品	
	図録（8種2880冊）	—	図書館、中学・高校、イベント参加者への寄贈	図書館、中学・高校、イベント参加者への寄贈	図書館、中学・高校、イベント参加者への寄贈	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	色紙在庫削減（販売以外）	計画	40枚配布	400枚	400枚	400枚
		実績				
図録・書簡集の在庫削減（販売以外）	計画	300	400冊	400冊	400冊	
	実績					